

◆◆◆ 山田 政幸 議員 ◆◆◆



河川管理について

質 村内海岸線に連結する河川整備の取り組み状況、日常的に河口閉塞の箇所が幾つあるのか。

答 建設課長 大城 学

大小合わせて45の河川があり、そのうち護岸整備済みが約8割以上と思う。日常的河口閉塞は6カ所ぐらいだと把握している。

質 ワチ川(熱田川)は去年、改修工事を完了したが河口閉塞は未だに解決されていない。工事の完了後の調査はされたか。また河口閉塞の防止対策を、今後どう考えるか。



ワチ川河口 (熱田)

答 建設課長 大城 学

工事完了後は、施工業者に確認し情報を得ている。河口閉塞については数回、浚渫を行っているが、日常的な河口閉塞の状況を確認しており、今後は導流堤も含めた対策が必要な箇所だと考えている。

質 平成30年度、福地川の改修工事の計画が実施されるが、河口閉塞の対策も同時に考える必要があると思うが、どのような計画か。

答 建設課長 大城 学

村道11号喜瀬武原線で福地川にかかる橋梁部分の河川断面、橋梁も含めた設計となっており、河口閉塞対策等は計画しておりませんが、今後は、地元及び関係機関と十分調整しながら検討した

い。

質 第5次総合計画の中で防災の対応、生態系の保全や親水性の確保を主眼とした河川整備を行うと述べております。どのような計画か。

答 村長 長浜善巳

自然環境、自然景観に配慮しながらも、また防災の観点も含め、河口閉塞など実態調査もしながら、河川管理をして参りたい。

公共施設の

有効活用について

質 ふれあい体験学習センターでのイベントなどの利用、また年間稼働率は。

答 商工観光課長 宮平 寛

村産業まつり、福祉まつり、修学旅行体験学習等で、使用状況につきましては屋外は天候的なことで左右されることもあり、イベント広場は利用頻度は少ないのが現状です。

質 村産業まつりの際に来場者から広場内のテントが死角になりステージが見えづらいとの声がかかるが、大型パワーテントの設置はできないか。



イベント広場

答 商工観光課長 宮平 寛

大型パワーテントの設置については、産業まつりを中心に指定管理者である村観光協会へも要望があると聞いている。村としては、予算的にも調査しながら検討したい。

質 ゆうなホールの出入り口を工夫対策できないか。防災面から、会場内非常口が前方に2ヶ所しかない。危機管理の観点から後方にも避難口、非常階段を作れないか。

答 商工観光課長 宮平 寛

ホールの利用に関しては、トイレ等、途中退席も含め、出入りしづらいと感じている。危機管理に関しても、建築基準法的问题はないが、実際の危機管理も含めて後方への出入り口の設置、階段も踏まえ、検討していきたい。

◆◆◆ 平良 幸夫 議員 ◆◆◆



地域福祉の推進について

質 就労定着支援等の新たな障害福祉サービスとは。

答 福祉健康課長 長浜保治

まず一つ目に、自立生活援助、障害者支援施設やグループホーム、病院等を利用していた障がい者が、一人暮らしを始めた時に、生活や健康、近所つき合いなどに問題がないか訪問して必要な助言等の支援を行う。二つ目に、就労定着

支援、一般就労へ移行した障がい者が就労に伴う環境変化による生活面での課題に対応できるように、企業や自宅への訪問、来所による必要な支援を行う。三つ目、居宅訪問型児童発達支援、重度の障害等で、通所での療育支援が困難な障がい児に対して、居宅を訪問して日常生活における基本的な動作の指導、知識、技能の支援を行う。

質 生活支援体制整備事業とはどのようなものか。

答 福祉健康課長 長浜保治

単身や夫婦のみの高齢者世帯、認知症の高齢者が増加する中、村が中心となってボランティアや社会福祉協議会、老人クラブや商工会、民生委員等の生活支援サービスを提供する各種団体、事業主体と連携しながら多様な日常生活上の支援体制の充実、強化及び高齢者の社会参加の推進を一体に図っていくことを目的に実施されます。

高齢者福祉の

推進について

質 定期的な情報の共有や連携強

化の場として、協議体を設置するが、役割は何か。

答 福祉健康課長 長浜保治

社協、市町村、NPO、民間企業、ボランティア団体を網羅した組織になります。地域支援コーディネーターが各行政区の人材なり地域資源が活用できるのか、どういったサービスの要望があるのか情報を収集し、協議体の中でいろいろ検討していきたい。

商工・観光業の

振興について

質 お宝認定制度とは、どのようなものか。

答 商工観光課長 宮平 寛

地域資源を活用して開発された優良な特産品、飲食メニュー、また観光商品を村のお宝として認定し、消費者、特に観光客の信頼を高めることで、商品、サービスの普及と需要拡大を図り、村内の農林水産業及び商工業、観光業の振興に資することを目的としている。認定商品に対しては、お宝認定ロゴマークの表示やイベント等における紹介、各種パンフレット、ホームページ掲載等で広くプー

観光業の推進について

質 「おもてなし」の心をどのように普及啓発するか。

答 商工観光課長 宮平 寛

村民の観光産業に対する理解向上を図るため、観光とは何か、税金を含めた観光産業が地域に与える影響と多面的な観光産業について整理したリーフレット等を策定し、子供から高齢者まで幅広く村民に観光教育の機会の創出を図ってまいります。

質 具体的に何をやっていくのか。

答 商工観光課長 宮平 寛

学校等におきましては、総合学習時間を利用して、職員を派遣して観光に対する理解の啓蒙啓発に努めていきたい。